

第132回リニアドライブ技術委員会議事録（案）

日時：平成24年12月7日(金) 13:30～16:30

場所：JR東海品川ビルA棟会議室

出席者：委員長 北野（JR東海）

副委員長 水野（信州大）

委員 上田（東芝）、海老原（IEEJプロ）、古関（東京大）、長谷川（鉄道総研）

樋口（長崎大）、平田（大阪大）、丸山（東芝、大橋委員代理）、矢野（産総研）

吉桑（三菱電機）、脇若（信州大）、渡邊（IEEJプロ）

幹事 村井（JR東海）、鳥居（東京都市大）

幹事補佐 矢島（SMC、小林委員代理）（記）

提出資料

- 132-1 第131回リニアドライブ技術委員会議事録（案）（矢島幹事補佐）
- 132-2 第108回（H24年度第2回）産業応用部門研究調査運営委員会（北野委員長）
- 132-3 平成24年度第2回研究調査会議議事録（案）（北野委員長）
- 132-4 平成25年度（H25年4月～H26年3月）活動計画（2次案）（北野委員長）
- 132-5 平成24年度リニアドライブ技術委員会活動報告（北野委員長）
- 132-6 電気学会各賞（優秀技術活動賞、特別活動賞等）ご推薦のお願い（北野委員長）
- 132-7 平成25年電気学会東京支部連合研究会開催ご協力のお願い（北野委員長）
- 132-8 リニアドライブ技術委員会名簿（矢島幹事補佐）
- 132-9 リニアドライブ技術関連カレンダー（矢島幹事補佐）
- 132-10 電気学会リニアドライブ技術委員会の共有ファイル（矢島幹事補佐）
- 132-11 電気学会リニアドライブ研究会（2013年2月）のご案内（矢島幹事補佐）
- 132-12 電気学会リニアドライブ研究会（2月）のご案内（矢島幹事補佐）
- 132-13 産業応用フォーラム報告書（上田委員）
- 132-14 産業応用フォーラム「新世代アクチュエータの多自由度化可能性」の報告（上田委員）
- 132-15 多自由度新世代アクチュエータの性能評価調査専門委員会（MDD）活動報告（上田委員）
- 132-16 産業用リニアドライブ技術の応用展開調査専門委員会（MEL）活動報告（矢島幹事補佐）
- 132-17 第4回多自由度新世代アクチュエータの性能評価調査専門委員会議事録（上田委員）
- 132-18 第4回産業用リニアドライブ技術の応用展開調査専門委員会議事録（案）（矢島幹事補佐）
- 132-19 第6回環境調和型磁気支持応用技術の体系化調査専門委員会議事録（坂本代理）

議事

1. 議事録確認

資料132-1を基に、矢島幹事補佐から第131回委員会の議事録が確認され、承認された。

2. 報告事項

- 2.1 資料132-2を基に、長谷川委員から10月5日に開催された第108回（H24年度第2回）産業応用部門研究調査運営委員会について説明がされた。特記事項として、2013年7月にメカトロ技術委員会が発足する。H25年電気学会全国大会のシンポジウムに産業応用部門から7件提案があり、全て採択された。
- 2.2 資料132-3を基に、北野委員長から来週開催される第109回（H24年度第3回）産業応用部門研究調査運営委員会について説明があった。本LD技委は産業応用フォーラムを開催するアクティビティが低く、またLDIAの剰余金があるが活用されていない。今後アクティビティを増やしていきたい（北野委員長）。
- 2.3 資料132-5を基に、北野委員長から本年度のLD技委の活動報告が説明された。H24年のLD研の発表件数が108件に増加し、数年前の状況に戻った。
- 2.4 資料132-6を基に、北野委員長から電気学会各賞の推薦について説明があった。
- 2.5 資料132-8を基に、矢島幹事補佐から、LD技委の名簿の確認があった。変更があれば、共有データベース内の名簿を各自変更する。
- 2.6 資料132-9を基に、矢島幹事補佐から、リニアドライブ技術関連カレンダーの説明があった。2013年7月にモータ技術シンポジウムとCOMP MAG2013、2014年10月にMAGLEV2014が開催される

などの追加意見があった。未入力の情報があれば、各委員で共有カレンダーに入力する。

- 2.7 資料 132-10 を基に、矢島幹事補佐から LD 技委の共有データベースについて説明があった。新たに委員会の議事録や提出された資料が閲覧できるようになった。リンク先を委員会開催案内のメールなどに記載することが承認された。
- 2.8 資料 132-12 を基に、矢島幹事補佐から、共通で使用できる LD 研の案内チラシの説明があった。内容が確認・修正された。後日、共有データベースにアップする。
- 2.9 資料 132-13, 資料 132-14 を基に、上田委員から 10 月に開催された産業応用フォーラムについて報告があった。参加者に「フォーラムを何で知ったか?」「参加したきっかけは?」などのアンケートがとられており、興味深かった。今後開催する LD 技委のフォーラムでも同様なアンケートを行うことになった。

3. 審議事項

- 3.1 資料 132-4 を基に、北野委員長から次年度の活動計画が説明された際、下記の調査専門委員会（名称は仮）を新設したいと説明があった。
 - ・ LD 医用応用調査専門委員会
 - ・ LD 解析技術調査専門委員会
 解析の委員長について、「新しい世代が良い」「外部の方に参画してもらっても良い」などの意見があり、山口先生（岐阜大）・藤崎先生（豊田工大）が候補に挙げられた。上田委員、古関委員、平田委員から候補者に打診する。
- 3.2 資料 132-7 を基に、北野委員長から H25 年度電気学会東京支部連合研究会について説明があった。今回も LD 技委は辞退することが承認された。
- 3.3 資料 132-11 を基に、矢島幹事補佐から LD 研（2 月）について、発表件数が少なく、締め切り延期したことが説明され、発表の依頼があった。もともと 2 月は大学が卒論・修論で忙しく、研究会の発表件数が集まりにくいことが指摘された。テーマや開催場所を魅力的にしたほうがよいという意見があった。2014 年 2 月に予定されている LD 研は担当の MEL 委で開催月を検討する。
- 3.4 資料 132-11 の「LD 研（2 月）の案内」の説明の際、LD 研でメーカーに製品紹介を依頼することが討議された。LD 研でメーカーから製品紹介をしてもらうことは大多数の賛成があった。また、発表しやすくするため、「メーカーに依頼して発表してもらうのに限り、研究会資料はタイトル・概要など必須事項以外は発表時のプロジェクタ画面の一覧でよい」ことが承認された。上記のスタイルの研究会資料では、論文としてのレベルが懸念され、以下の意見が出た。
 - ・メーカーからの製品紹介だけを集めた「メーカー特集」を行う
 - ・上記のメーカー特集のサーベイを後の研究会やニュースレターで報告する
 - ・会社で製作している技術報告書の内容を研究会で発表してもらうように依頼する
- 3.5 資料 132-18 を基に、矢島幹事補佐から第 4 回 MEL 委において、「産業応用・異業種を問わずリアルタイムを採用するきっかけとなるようなしくみ作りや啓蒙資料の作成が必要ではないか（例えば Web サイトの整備）」という意見があったことが説明され、討議された。北野委員長から外部への発信や Web の整備などを上部委員会に要望することになった。 *Wikipedia*

4. 各調査専門委員会活動報告

資料 132-15～資料 132-19 を用いて、各調査専門委員会から活動報告があった。

以上